

貸しオフィス人気再び

最新線

名古屋のオフィス市場に人気が集まりそうな情勢だ。東日本大震災直後は東京からの避難需要で一時満室状態だった名古屋のグレードの高いレンタルオフィスが、この夏再び人気を集めている。拠点の分散化を図る企業が増えているとみられ、この需要が定着すれば、ほかのオフィスビルへの入居が拡大する可能性もある。(斉場保伸)

名古屋市西区の名古屋ルーセントタワー最上階。レンタルオフィス事業を展開するサイブコープ(本社・オーストラリア)が、六百平方メートルフロアを長期契約している。内装は木目を多用し、オフィス家具は重厚な雰囲気

を漂わせる。すりガラスの間仕切りの向こう側は、通信回線などを完備する貸しスペースだ。

保有する室数、広さは明らかにしていないが、最も狭いスペースでも、月額レンタル料金は二十万円台からと高額。それでも、三月十一日の震災直後は東

名古屋 東京からの避難特需後

名古屋にレンタルオフィスの拠点を設け、リスク分散を図る企業が再び増えている。名古屋市の名古屋ルーセントタワーで



リスク分散へ予備拠点

の稼働率だった空室は一気に満杯に。運用責任者たちは借りたオフィスで業務を継続したという。

しかし、一カ月の延長利用を経て、五月中旬には避難需要は収束。再び空室が生まれ、七月中旬には稼働率は87%にまで落ちた。

ただ、この間も東京の企業などからは、賃料や空き状況だけでなく、ビルの耐震構造、テレビ会議装置の有無などを問い合わせる電話は継続的に入っていたという。

八月からは再び外資系IT企業などで満室状態になる見込み。サイブコープの名古屋ルーセントタワーのマネリそうだ。

「ジャー、信夫陽子さんは「企業がリスク分散に真剣に取り組み始めている。人数は少ないが名古屋にバックアップの拠点を確保して